



ココライン

運用状況のご報告

2016年4月7日

正会員，賛助会員のみなさま
そだちの樹をご支援いただいているみなさま
そだちの樹にかかわるすべてのみなさま



<http://sodachinoki.org/kokoline>

2015年4月にスタートしたそだちの樹の相談窓口「ココライン」は運用開始から1年を迎えました。
この間の運用状況をご報告します。

利用件数

2016年3月末日現在，電話又はメールによる相談件数は71件，本人との面談に至ったケースは14件，
ウェブサイトへのアクセス件数（ページビュー件数）は4,714件となっています。

相談件数

71件

（電話・メール）

面談件数

14件

ウェブサイトの
アクセス件数

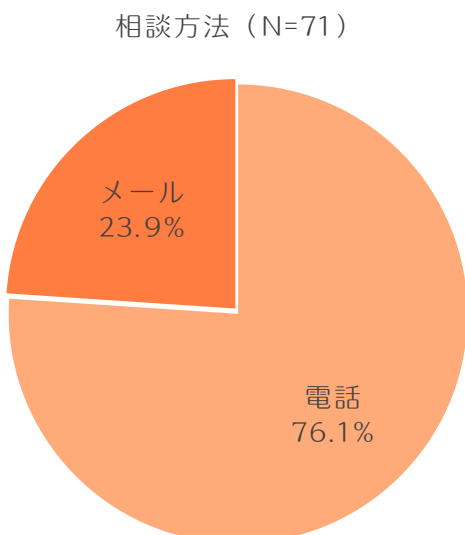
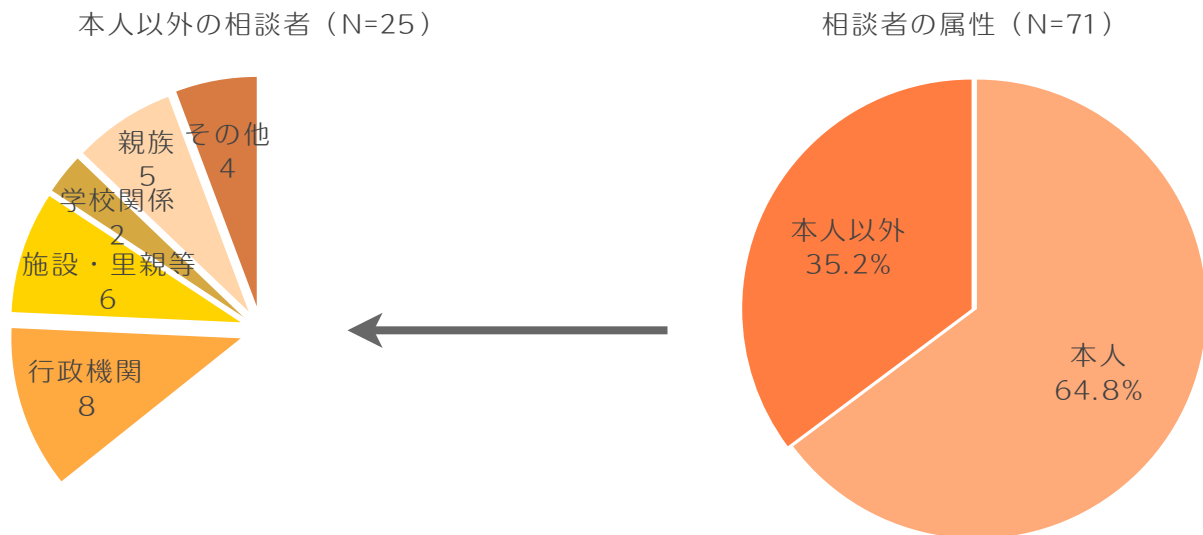
4,714件

相談傾向

相談者の属性

71件の相談のうち、悩みがある本人からの相談は46件（64.8%）、本人以外の方からの相談は25件（35.2%）となっています。ここラインでは、対象としている若者たちに私たちの存在を知ってもらうために、悩みを持つ若者たちとつながりのある大人（児童相談所、各市区町村の子育て支援課、女性相談所、保護観察所、高校、大学、NPOなど）にカードを持ってもらう戦略をとっています。そうした中で本人からの相談が過半数を大きく上回ったことは、広報の成果が現れてきた可能性を感じさせます。

本人以外の相談者を見ても、さまざまな大人から相談が寄せられていることが分かります。



相談方法

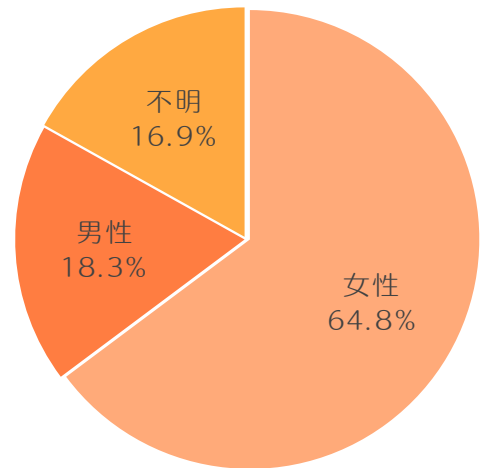
相談方法は電話の割合が多く（76.1%）、メールは17件（23.9%）にとどまっています。

メール相談は、面談や具体的な支援につながるものは少数ですが、悩みを持つ方がSOSを出しやすい相談方法として、今後も動向を見守っていきたいと考えています。

当事者の性別

相談の対象となっている当事者の性別は女性が多くなっています。

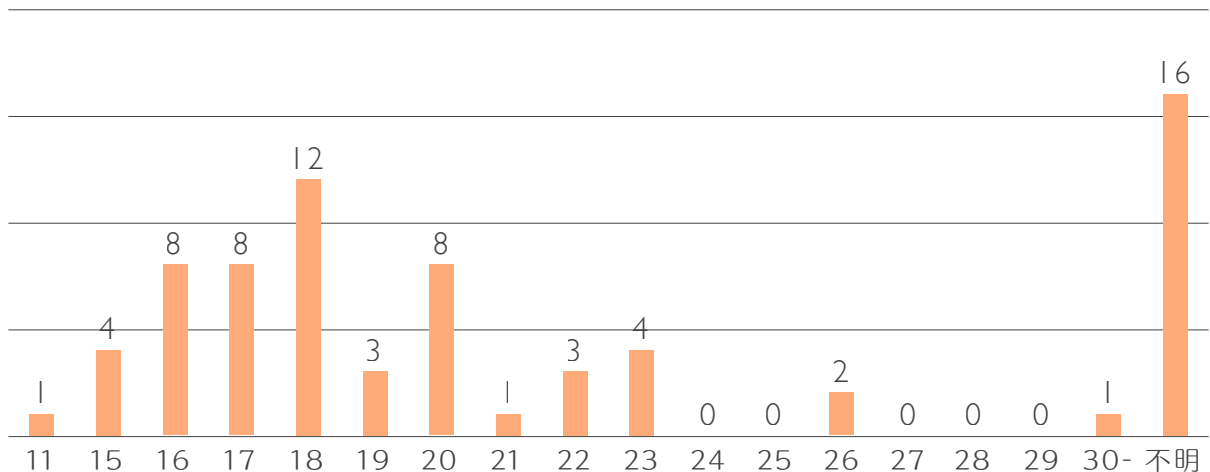
当事者の性別 (N=71)



当事者の年齢

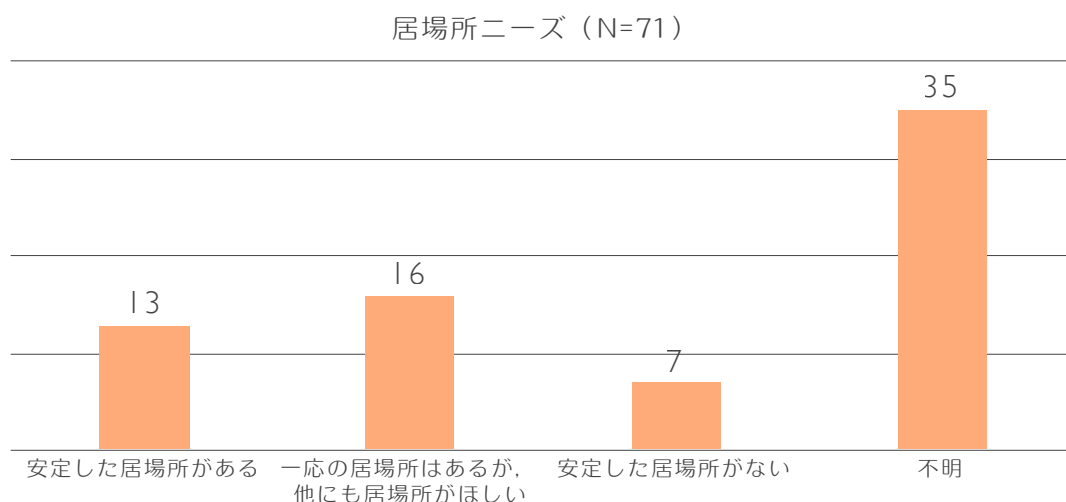
当事者の年齢分布を見ると、割合としては10代が多くなっています（50.7%）が、20代の相談も少なくありません。20代も10代と変わらず深刻な内容の相談が多く、20代の若者たちの悩みを受け止める相談機関が十分に機能していない可能性を感じています。

当事者の年齢 (N=71)



居場所ニーズ

ここラインでは、居場所のない、居場所がないと感じている若者たちのニーズを把握するために、独自に「居場所ニーズ」という指標を定めて、相談ケースのアセスメントを行っています（相談時に把握した情報に基づいて、相談担当者の判断で分類しています）。その結果は次のとおりです。まだ十分な分析はできていませんが、一定数の若者たちが居場所を求めていることが分かります。



まとめ

1年の活動を通して、ふくおかで暮らす若者たちの悩みが、少し見えてきた気がします。これからもここラインを通じて、若者たちの動きを追っていきたいと思います。今後もここラインへのご声援、よろしくお願い申し上げます。